



9年前のアグロフォレストリー事業で出会ったレイクセブ町辺境の先住民学校/ILS。その運営支援を通じて、年少児童の学ぶ機会を支えることができました。(アニータ校長、ロバート先生とチボリの子どもたち)



2024年1月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

郵便振替口座 00210-5-72693

加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会



ピースボートの旅から — カンボジアの地雷除去に思う支援の形 —

理事 高山好主

年の初めから地震が起こってびっくりしました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

私は昨年、約10年ぶりにピースボートの船旅に行ってきました。以前とは船の大きさや乗船客の様子も変わっていました。以前は乗客約1000人位でほとんどが日本人でしたが今回は1800人の乗船客に対して約4/6の1200人が日本人、1/6は中国人、残り1/6は韓国、シンガポール、マレーシアなどでした。東南アジアの人たちと交流することは重要な事と思います。

ピースボートのオプションツアーには観光目的のもの以外に、現地の人たちと交流するものや見分を広めるものがあります。こんなオプションツアーの中にカンボジアの地雷除去に関するものがありました。

このツアーでは、ピースボートが地雷除去で支援している村、現地の地雷除去団体、地雷被害者を支援する団体を訪問します。(このツアーに参加したわけではありませんが報告会があり、そこで聞きました。次の機会があったら参加してみたいと思います。)

カンボジアでは内戦終結から約30年となる現在も除去作業や手足を失った被害者への支援・職業訓練が行われています。地雷除去が進んだことや地雷原がある村や学校などでの地雷回避教育が行われたことで被害が減少していますが、2022年の1年間には41人が被害に遭い、10人が死亡、24人が負傷、7人が四肢の切断を余儀なくされました。

地雷は戦車を破壊する強力な物以外に、3~5kgの重さがかかれば爆破する対人地雷があります。このため、大人だけでなく小さな子どもも被害に遭います。この子どもたちのために小学校を建て支援も行われてきました。この学校は古くなり修理が必要になっているとのこと。

長期間の支援には時々により支援内容が変化しま

すが、その時に必要なもの、その後の自立に必要なものや心の支援を継続的に行うことが重要です。

HANDSでも、医療支援から、女性自立のため、教育のためなどいろいろの支援事業を実施してきました。形を変えても、長期にわたり、寄り添い支援を続けることで初めて現地の課題解決につながるといえます。

船旅に関しては目的の一つであったオーロラを見る事は天候が悪くてできませんでしたが、次に機会があったら再度挑戦しようと思っています。

本通信を手にしていただいた皆様へ

会員、市民の皆様、予定では本NPO法人として最終号となる「ビラーン通信」116号に目を通していただきありがとうございます。

この度の高山理事の寄稿にもありますように、又、会員の皆様もご経験のように、国際協力の原点には「出会い」があります。ピースボートは、すでに何らかの活動をされている方との船上での出会いもあり、又、寄港地それぞれでの貴重な出会いや経験が、私たちの「地球市民」の意識、必要なニーズに応えたいという気持ちを、具体的な国際協力の一步に繋げるのではとないかと思っています。実際に新規参加の会員から、そのきっかけはピースボートでのHANDS会員との出会いだったと伺ったことがあります。

私たち役員や事務局も、機会をとらえて現地を訪ね、子どもたち、住民、教師その他多くの辺境の村々での出会いの中で、それぞれの課題やニーズの把握に努めたうえで、事業を実施し、本会報を通じて現況をお届けしてきました。

コロナ以降、現地訪問は途絶えましたが、過去の出会いの蓄積を通じて、現地からのメールの背景にあるものを含めて、皆様と共有させていただきました。長い間のご支援、また、通信の愛読をありがとうございました。

(代表・山崎)